

彩菜栽

2016年
1月

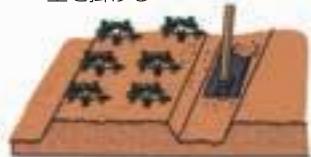
越冬後のイチゴの管理



秋に植え付けた露地栽培のイチゴは、冬の本格的な寒さの下で体を縮めて休眠状態に入つていきましたが、厳寒期を過ぎるころから、にわかに新葉が勢いづいてきます。このころ、株元付近の枯れかかつた葉を、付け根からかき取り、きれいで整理し、畑が乾いていたらたつ

花、肥大してくれる果実に、雨で土が跳ね上がるのを防ぐとともに、地温上昇を図り、雑草を抑制し、さらに地面からの水分蒸発を抑えて乾燥を防ぎ、肥料の流失や土の固

肥料をばらまいた上に
土を掛ける



ど施し、通路の土をかぶせ畝の形を整えておきます。イチゴの根は肥当たりしやすいので、株のすぐ近くに肥料をまいたり、肥料を大きく耕しご込み、根を傷めないように注意してください。

追肥した後で、図のように黒色のポリエチレンフィルムのマルチをします。マルチングする

れたらその部分を土で押さえておきます。また株間に一握りの土を置き、風によるばたつきを防ぐようにします。

この他に、イチゴの収穫時期を早めたい場合には、同時に市販の骨材を立て、フィルムをトンネル上に覆つてやります。これにより収穫を

イチゴが春を感じ、盛んに伸び始めてくるとナミハダニやアブラムシ、アザミウマ、輪斑病、じやのめ病などの病害虫が発生しやすくなるので、早めに適応薬剤を正しい使用法で散布して被害を防ぎましょう。

結を防ぐなど、さまざまな効果が期待できるのです。

マルチの手順としては、育つていいチゴの上にフィルムを覆い、風で飛ばされないように、周囲の裾に土を掛け足で踏み付けておきます。そして、イチゴの株で盛り上がっている位置のフィルムに、刃物で切り

ル掛けもあまり早く行い過ぎると咲いた花が低温に遭い、黒変枯死してしまって、適期を守ることが大切です。

The image contains two separate illustrations. The top illustration shows a blue cloth being used as a mulch over a garden bed. A hand is shown pulling the cloth up, with the text '裾を上げる' (raise the hem) next to it. Below this, another hand is shown pressing the soil down under the cloth, with the text '土で押さえる' (press with soil). The bottom illustration shows a close-up of a radish plant with several small radishes at the base. A hand is shown spraying a white liquid onto the foliage, with the text '薬剤散布は葉の裏からも丁寧に' (carefully spray the underside of the leaves) next to it.

結を防ぐなど、さまざまな効果が期待できるのです。

約20日ほど早めることが可能ですが、トンネルの裾には土を掛け風で飛ばされないようにしておきますが、日中の気温が30度以上に上がらないよう、頂部に穴を開けるか、所々裾を上げて換気することを忘れな